原 著

韓国語話者児童における音読の発達的变化に関する認知能力の影響

——小学校1年生から2年生までの縦断研究——

周 英實¹⁾ 朴 賢璘²⁾ 宇野 彰^{1,3)}

要 約：全般的知能が正常な韓国語話者の小学1年生のうち、2年生まで追跡可能であった85名を対象とし、ハングルにおける音読の発達的变化にかかわる認知能力の影響と音読方略の発達的变化を検討した。重回帰分析の結果、非単語音読成績の変化を有意に予測する認知能力は視覚認知能力と音韻認識能力であった。音読の流暢性課題では、単語と非単語速読成績の変化を予測する認知能力は自動化能力と語彙力であった。分散分析の結果、音読流暢性においては語彙性と学年の有意な交互作用が認められた。本研究の結果から、ハングル音読の学習到達度には認知能力の発達に関係していることが考えられた。また、1年生から2年生の間には非語彙経路と語彙経路双方が発達していたのではないかと考えられた。

索引用語：韓国語、音読の学習到達度、認知能力の発達、音読方略

Effect of Cognitive Abilities on Developmental Changes in Reading
among Korean-Speaking Children

——Longitudinal Study from First to Second Grades of Primary School——

Yeong-sil Ju¹⁾, Hyun-Rin Park²⁾ and Akira Uno^{1,3)}

Abstract: We investigated developmental changes of reading strategy and the effect of cognitive abilities related to developmental changes in reading of Hangul. A total of 85 Korean-speaking children were tested on their reading skills during grade 1 (2011) and again during grade 2 (2012). Results of multiple regression analysis revealed that phoneme awareness and visual cognitive abilities were significant predictors of non-word reading performance. For word and non-word reading fluency performance, receptive vocabulary and automatization abilities were significant predictors. Results of analysis of variance revealed a significant interaction between lexicality and grade level. Together these results suggest that development of cognitive abilities is related to reading achievement. In addition, our results showed that both the lexical route and non-lexical route are developed during grades 1 and 2.

筑波大学大学院人間総合科学研究科¹⁾：〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

光州大学言語心理治療学科²⁾：277, Hyodeok-ro, Nam-gu, Gwangju, Korea

LD・Dyslexia センター³⁾：〒272-0033 千葉県市川市市川南 3-1-1-315

¹⁾Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba: 1-1-1, Tennohdai, Tsukuba, Ibaraki 305-8577, Japan

²⁾Division of Speech and Psychotherapy, University of Gwangju: 277, Hyodeok-ro, Nam-gu, Gwangju, Korea

³⁾LD/Dyslexia Centre (NPO Corporation): 3-1-1-315, Ichikawa-Minami, Ichikawa-shi, Chiba 272-0033, Japan

2013 年 11 月 19 日受稿 2014 年 3 月 31 日受理

Key words: Korean Hangul, reading achievement, development of cognitive abilities, reading strategy

はじめに

これまで読み書きの発達にかかわる重要な認知能力として、言語音を分解し、単語音列のなかから音節や音素を抽出するなど、音韻を認識し操作する能力である音韻認識能力、文字形態の視知覚と視覚的記憶を含む能力である視覚的認知能力、絵や数字といった記号を音にすばやく変換する能力である自動化能力、単語の意味を理解し、使用できる単語力を表す語彙力が重要であると報告されている¹⁻³⁾。また、これらの認知能力は言語の種類や児童の読み書きの発達の变化に応じてその役割の貢献度が異なることが示唆されている^{4,5)}。

Patel ら⁶⁾ は、異なる文字体系である英語やドイツ語の読みの発達に影響する認知能力を比較検討している。その結果、文字列から音列への変換が不規則である英語では、全般的な読み書きの発達に音韻認識の役割が大きかった。一方、文字列から音列への変換が規則的であるドイツ語では、読み書きの初期段階で音韻認識能力が重要であり、英語より自動化能力の影響が大きいと報告されている。英語圏の幼稚園から小学校4年生までの児童を対象にした縦断研究では、全般的な読みの発達に音韻認識能力が重要であると報告されている⁷⁾。一方、文字列から音列への変換規則が規則的な言語であるオランダ語での縦断研究では、年長児から小学校2年生までの読み学習に音韻認識能力と自動化能力が重要であるが、2年生からは音韻認識能力の影響が軽減すると示唆されている⁸⁾。「音読」の発達の变化に関連する認知能力については、横断研究か縦断研究かという研究方法の違いによっても、また、言語の種類によっても結果が異なっており、まだ、統一した見解はない。

韓国語のハングルは、「alpha-syllabary」と呼ばれ、音素を表す「子音 14 個、母音 10 個」のシンボルで構成されている。音韻の最小単位は音素であり、最大 4 つの音素で音節が構成され、音節単位で記載される。このような音韻的特性から、韓国語は英語と同様に表音文字に分類されるが、文字素から音素への変換が比較的規則的な文字体系である。また、文字形態に関しては、英語や日本の仮名より複雑であるが、日本語や中国語の漢字よりは単純である。

ハングルにおける読み書きの横断研究では、音韻認

識能力、自動化能力、語彙力がハングルの音読に影響していると報告されている⁹⁾。一方、縦断研究は少ない。読みの困難さが見られた小学校低学年児童を対象とした2年間の縦断研究から、学年が上がっても読みの困難さが残ることが示唆されている¹⁰⁾。

また、年齢により単語認識、音読流暢性、読み理解力に影響する認知能力が異なることが報告されている¹¹⁾。しかし、ハングルにおいて文字習得に重要と考えられる音韻認識力、視覚認知力、語彙力、自動化能力すべてを因子として検討した縦断研究は見当たらない。また、発達により変化する音読方略に関する研究はほとんど行われていない。

そこで本研究では、ハングル読みの学習到達度と認知能力との関係における発達の变化について検討する。また、1年生から2年生までのハングル音読方略の発達の变化を検討することを目的とする。

方 法

1. 対象

韓国の人口約 250 万人都市にある公立小学校 1 校の通常学級に在籍している 2 年生 105 名のうち、Raven 色彩マトリックス検査 (RCPM) にて -1.5 SD 以上の得点を示し、小学校 1 年生時に「読み書きスクリーニング検査」¹²⁾ を受け、追跡可能であった児童 85 名 (男児 43 名、女児 42 名) を本研究では典型発達児として分析対象とした。

2. 課題および手続き

1) ハングル音読検査

ハングル音読検査として、朴と宇野¹²⁾ の音読正確性課題と流暢性課題を実施した。音読正確性課題では、単語と非単語音読課題を実施した。2 音節から 4 音節で構成されている単語 (23 個) と非単語 (5 個) を刺激として使用した。音読流暢性課題としては、単語、非単語と文章速読課題を実施した。2 音節から 5 音節で構成されている単語 (16 個)、非単語 (16 個) と 13 個の文で構成されているパラグラフを用い、それぞれできるだけ速く間違えないように音読してもらった。

2) 認知検査

全般的知能検査として RCPM を実施した。音韻認識課題として、朴と宇野¹²⁾ の課題を用いて、音節削除課題 (例: 「/tu.tcha.ɰang/ (주차장, 駐車場) から

最初の音を削除するとどのような音になりますか」, 正反応は /cha:ŋang/) , 音素 coda・onset 削除課題(例: 「/ko:m/ (こ, くま) から最初 (onset) の最も小さい音を削除したらどのような音になりますか」, 正反応は /o:m/ , 音素同定課題 (例: 「/ka:m-kum-cin/ (か-くみ-しん, 柿-金-靴) のなかから語頭音 (onset) が異なる単語は何ですか」, 正反応は /cin/) , 非語の復唱課題を実施した. 視覚認知課題として, Rey-Osterrieth Complex Figure Test (ROCFT) の模写課題, 直後再生課題, 30 分後遅延再生課題を実施した. また, 自動化能力課題として Rapid Automatized Naming (RAN) を実施した. 語彙検査として, Receptive and Expressive Vocabulary (REVT) のなかの受容性語彙検査と, 呈示した単語の綴りが正しいかどうか判断してもらう語彙判断課題を実施した.

3. 分析方法

音読の学習到達度と認知能力の関係における発達的な変化を検討するため, 音読の正確性と流暢性における各課題成績の 1 年間の変化量と各認知課題の変化量を算出した. その後, 音読と速読課題成績の変化量を従属変数とし, 各認知課題の変化量を独立変数として, 重回帰分析を行った. また, 音読方略の発達的な変化を

検討するため, 音読と速読課題における語彙性 (単語 × 非単語) と学年 (1 年 × 2 年) について二要因分散分析を行った.

結 果

1. 各課題における平均と標準偏差

1 年次と 2 年次での音読課題と各認知課題の平均得点と標準偏差 (SD) を求めた. また, 1 年間の音読課題と各認知課題の変化量の平均と標準偏差を算出し表 1 に示した. すべての音読・認知課題にて 1 年次より 2 年次で有意に高い得点を示した. 音読流暢性と RAN 課題では 1 年次より 2 年次の平均所要時間が有意に短かった (表 1).

2. 音読の学習到達度と認知能力との関係

1) 音読の正確性

重回帰分析の結果, 1 年間の単語音読の変化量を予測した認知能力の変化量は認められなかった. 一方, 非単語音読の変化量は ROCFT 遅延再生課題, 音素同定課題の変化量により予測された ($F(11, 73) = 2.25$, $p < .05$) (表 2).

2) 音読の流暢性

単語速読の変化量を予測した認知能力の変化量は,

表 1 各課題の平均得点と標準偏差

課題		1 年		2 年		変化量		変化量の統計値	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD	t 値	p 値
音読検査									
正確性課題	単語音読 (/23)	7.68	2.68	10.44	2.78	2.75	2.90	-8.70	.00
	非単語音読 (/5)	3.47	1.44	3.80	1.09	0.33	1.42	-2.13	.04
流暢性課題	単語速読 (秒)	17.29	6.66	14.70	5.57	-2.59	5.76	4.12	.00
	非単語速読 (秒)	33.62	8.77	29.23	7.07	-4.39	6.40	6.29	.00
	文章速読 (秒)	96.19	41.02	78.38	33.24	-17.80	28.56	5.71	.00
認知検査									
知能検査	RCPM (/36)	26.4	4.29	29.72	3.13				
音韻認識課題	音節削除 (/5)	3.74	1.50	4.62	0.87	0.88	1.46	-5.55	.00
	音素 onset 削除 (/5)	1.42	1.75	2.85	2.10	1.42	1.94	-6.74	.00
	音素 coda 削除 (/5)	3.00	1.41	4.11	1.13	1.11	1.53	-6.64	.00
	音素同定 (/5)	2.45	1.58	3.18	1.50	0.73	1.93	-3.46	.00
	非語の復唱 (/7)	2.31	1.13	2.80	1.21	0.49	1.45	-3.12	.00
視覚認知課題	ROCFT の模写 (/36)	23.54	7.54	26.85	6.73	3.31	7.94	-3.83	.00
	ROCFT の直後再生 (/36)	8.18	5.55	12.61	6.57	4.44	7.20	-5.65	.00
	ROCFT の遅延再生 (/36)	8.34	5.45	12.48	6.53	4.14	7.06	-5.38	.00
自動化能力課題	RAN (秒)	17.06	3.32	14.66	2.13	-2.40	3.19	6.90	.00
語彙検査	REVT (/24)	9.39	2.72	11.55	2.56	2.16	3.06	-6.49	.00
	語彙判断 (/20)	9.94	2.23	11.26	2.58	1.32	2.91	-4.15	.00

N=85, RCPM=Raven's Coloured Progressive Matrices; ROCFT=Rey-Osterrieth Complex Figure Test; RAN=Rapid Automatized Naming; REVT=Receptive and Expressive Vocabulary. 音読検査の流暢性課題, RAN 課題: 音読所要時間を測定し秒単位で記録し表記, 変化量の統計値: 対応のある t 検定, p 値: 有意確率

表2 重回帰分析の結果

従属変数 (変化量)	独立変数 (変化量)	ベータ 係数	有意確率 (p)	R ²
単語音読	—	—	—	—
非単語音読	ROCFT 遅延再生 音素同定課題	.318 -.272	.023 .022	.254
単語速読	RAN REVT 音節削除	.414 -.281 -.269	.000 .006 .017	.332
非単語速読	RAN REVT	.472 -.222	.000 .033	.289
文章速読	RAN	.308	.006	.210

RAN=Rapid Automatized Naming, ROCFT=Rey-Osterrieth Complex Figure Test, REVT=Receptive and Expressive Vocabulary Test

音節削除課題 ($F(11, 73) = 3.29, p < .05$), RAN 平均所要時間と REVT 課題 ($F(11, 73) = 3.292, p < .01$) であった。非単語速読の変化量を予測した認知能力は, RAN 平均所要時間 ($F(11, 73) = 2.70, p < .01$) と REVT 課題 ($F(11, 73) = 2.70, p < .05$) の変化量であった。文章速読の変化量を予測した認知能力は RAN 平均所要時間の変化量であった ($F(11, 73) = 1.77, p < .05$) (表 2)。

3. 音読方略

分散分析の結果, 音読課題にて語彙性と学年の主効果が見られたが (語彙性: $F(1, 84) = 200.19, p < .01$; 学年: $F(1, 84) = 16.46, p < .01$), 二要因の交互作用は有意ではなかった。音読速読課題にて語彙性と学年の主効果が見られ (語彙性: $F(1, 84) = 708.85, p < .01$; 学年: $F(1, 84) = 39.22, p < .01$), 二要因の交互作用は有意であった ($F(1, 84) = 6.21, p < .05$)。また, 学年における単語と非単語の正答数の両方に単純主効果が認められた (1年: $F(1, 84) = 678.69, p < .01$; 2年: $F(1, 84) = 391.33, p < .01$) (図 1)。正確性に関しては, 語彙性と学年との交互作用はみられなかったが, 非単語より単語の変化量が大きかった。流暢性に関しては, 1年次でも, 2年次でも単語は非単語より速く読まれていたが, 学年が上がったことによる音読所要時間の変化は非単語のほうが大きかった。

考 察

1. 音読の学習到達度と認知能力の関係における発達的な変化

1) 音読の正確性

非単語音読課題の変化量を予測した認知能力は, ROCFT 遅延再生課題と音素同定課題であった。一方,

音読正確性. 語彙性と学年での有意な主効果, 語彙性と学年での交互作用なし。

音読流暢性. 語彙性と学年での有意な主効果, 語彙性と学年での交互作用あり。

図1 二要因分散分析の結果 (語彙性×学年)

単語音読課題の変化量を有意に予測した認知能力はなかった。

非単語音読において音韻認識能力が音読に影響していたという本研究の結果は, 音韻認識能力が読み書きに影響しているという英語圏⁷⁾の研究と小学校低学年での音読に音韻認識能力が重要であるというドイツ語の研究報告⁸⁾と同様の結果であった。ハンゲルは, いくつかの音素の組み合わせである音節単位で表記される。非単語音読においては, おのおのの文字素をその対応規則に従って音に変換する能力が必要であり, 先行研究⁹⁾では, 「音素認識処理」が重要であると報告されている。このようなことから, 本研究でも音素水準での音韻認識能力が非単語音読成績の上昇に大きく影響していたのではないかと考えられる。

視覚認知課題である ROCFT 遅延再生課題は, 図

形を記憶し再生する課題である。英語と中国語での音読に関する研究¹³⁾では、英語より文字形態が複雑である中国語で視覚的記憶力が重要であると報告されている。ハングルは英語より形態的に複雑であると思われるため、中国語漢字と同様に視覚的認知能力の発達が影響しているのではないかと考えられた。

非単語音読課題の成績の上昇に影響したと思われる視覚認知能力と音韻認識能力の発達が単語音読課題の成績の変化量を有意に予測できなかったことは、認知能力の発達より韓国語の音韻変動ルールを学習したかどうかという環境要因が影響している可能性も考えられる。ハングルは、文字列から音列への変換規則がほぼ1対1対応している文字言語体系であるが、音節と音節の組み合わせによって、さまざまな音韻変動ルールが生じ、不規則な読み方をするようになる。たとえば、「편리」という単語は「편」と「리」の2つの音節で構成されている。「편리」を規則的な読み方で読めば/pyen.li/と読めるが、「편」のcodaである「ㄴ」(n)で終わる音節の次にonset「ㄹ」(l)で始まる音節がある場合、onset「ㄹ」の影響を受け、1番目の音節のcoda「ㄴ」(n)が2番目のonsetと同じ音に変化させて読む(変動ルールに沿った読み方: /pyelli/)という音韻変動ルールに沿って読む。

このような音韻変動ルールは小学校高学年で教わる。本研究で用いた単語音読課題リストにおいてもこのような不規則的な読み方をする単語がいくつか含まれている。韓国語の音韻変動ルールをどの程度習得しているかどうかという環境要因の影響も関連している可能性が考えられる。

2) 音読の流暢性

速読課題成績の変化量を、自動化能力課題であるRAN課題と語彙検査であるREVT課題が予測していた。音読流暢性における自動化能力の影響に関しては、英語圏¹⁴⁾、日本語圏の研究¹⁵⁾、および韓国語話者を対象とした研究¹²⁾で報告されている。本研究の結果では、音読速読成績ではなく、1年間の音読速読成績の変化量を扱っている点がこれまで報告された先行研究とは異なるが、音読速読成績の上昇に絵や数字などの記号を音にすばやく変換する能力の発達が重要であることが示唆された。

また、速読の発達の変化に語彙力の発達が影響しているという結果は、ハングルにおける音読に関する研究¹²⁾や日本語の漢字音読に関する研究⁵⁾を支持する結果であった。これらの結果から、単語速読において、より速く読むために、1文字ずつ音に変換する非語彙

経路だけではなく、単語の音や綴りに関する知識すなわち、心的辞書を使い単語全体を音読する語彙経路も使用する語彙性効果が見られた。しかし、語彙力が単語速読成績だけではなく非単語速読成績にも影響していたという本研究の結果は、単語のほうが非単語より音読速度が速いという語彙性効果だけでは、説明できない。ハングルの音読に関する先行研究¹⁶⁾では、同じ音節から構成される単語が音読できれば非単語も音読できると報告している。これらのことから、先行研究と同様に本研究でも1年生から2年生の間に、単語速読の発達だけではなく、非単語速読の発達に語彙力が影響し、よりスムーズに非単語を読めていたのではないかと考えられる。

2. 音読方略の発達的变化

流暢性においては、学年と語彙性(単語×非単語)との交互作用が有意であった。一方、正確性においては、学年と語彙性との交互作用はみられなかったが、それぞれに主効果が認められた。

これらの結果を二重経路モデル(Dual-Route Cascadedモデル: DRC¹⁷⁾に基づいて説明する。読み学習の初期には1文字ずつ音に変換する非語彙経路を使うと考えられる。また、年齢および学年が上がるに従い音読経験を積み重ね、単語全体を音に変換し音読する語彙経路も使用することになり、より速く読めるようになると解析される^{18,19)}。本研究の結果、1年次から2年次にかけて単語、非単語ともに正答率が上昇し、音読所要時間が短くなっていたことから、語彙経路も非語彙経路も発達していると思われる。

ハングルと同様に文字列から音列への変換規則が一定である文字体系のイタリア語と日本語の仮名でも、音読の発達に非語彙経路と語彙経路双方の発達が影響していると報告されている^{18,19)}。これらの報告では、小学校低学年で非語彙経路から語彙経路への移行が行われ非語彙経路だけではなく語彙経路も使用し、音読速度が速くなるというストラテジーの発達の変化について述べている。特に、日本語の仮名音読では、幼稚園年長児から小学校1年次の間には語彙的な読みより非語彙的な読みを中心に行っているが、小学校1年次から2年次にかけて非語彙的な読みから、語彙的な読みが中心となる音読ストラテジーの変化がみられている。しかし、正確性において学年と語彙性との交互作用が認められなかったという本研究の結果から、非語彙的な読みから語彙的な読みへの移行が十分には達成されていないのではないかと考えられた。ハングルにおいて、1年次から2年次にかけてまだ非語彙的

な読みから語彙的な読みへの移行が十分に行われていない理由を述べる。ハングルは、一文字が複数の音素で構成される確率が高いと考えられる。そのため、ハングルの音読は日本語の仮名音読より文字列から音韻列への変換が複雑であり、音韻変動ルールの獲得に時間がかかる可能性があるのではないかと思われた。

文 献

- 1) Kail R, Hall LK and Caskey BJ: Processing speed, exposure to print, and naming speed. *Appl Psycholinguist*, 20: 303-314, 1999.
- 2) 宇野 彰, 春原則子, 金子真人, 他: 発達性 dyslexia の認知障害構造—音韻障害単独説で日本語話者の発達性 dyslexia を説明可能なのか?—. *音声言語医学*, 48: 105-111, 2007.
- 3) Ziegler J and Goswami U: Reading acquisition, developmental dyslexia, and skilled reader across languages: a psycholinguistic grain size theory. *Psychol Bull*, 131 (1): 3-29, 2005.
- 4) McBride-Chang C, Cho JR, Liu H, et al: Changing models across cultures: associations of phonological awareness and morphological structure awareness with vocabulary and word recognition in second graders from Beijing, Hong Kong, Korea, and the United States. *J Exp Child Psychol*, 92: 140-160, 2005.
- 5) Uno A, Wydell TN, Haruhara N, et al: Relationship between reading/writing skills and cognitive abilities among Japanese primary-school children: normal reader versus poor readers (dyslexics). *Read Writ*, 22: 755-798, 2009.
- 6) Patel TK, Snowling MJ and de Jong, PF: Across-linguistic comparison of children learning to read in English and Dutch. *J Educ Psychol*, 96 (4): 785-797, 2004.
- 7) Wagner RK, Torgesen JK, Rashotte CA, et al: Changing relations between phonological abilities and word-level reading as children develop from beginning to skilled readers: a 5-year longitudinal study. *Dev Psychol*, 33 (3): 468-479, 1997.
- 8) de Jong PF and van der Leij A: Specific contributions of phonological abilities to early reading acquisition: results from a Dutch latent variable longitudinal study. *J Educ Psychol*, 91 (3): 450-476, 1999.
- 9) 朴 賢璘, 宇野 彰: 韓国語話者小学校3年生における音読にかかわる要素的認知能力の検討. *音声言語医学*, 51: 235-243, 2010.
- 10) Chung BJ: Relationships among word recognition, reading comprehension, phonological awareness, working memory, listening comprehension, and inferential skill: a two-year longitudinal study of second and third graders. *JSHD*, 20 (1): 103-121, 2011.
- 11) Kim AH, Yoo HS and Kim UJ: Prediction of word recognition, reading fluency, and reading comprehension: a longitudinal study of 5-year-old and 6-year-old children. *JEE*, 23 (4): 427-453, 2010.
- 12) 朴 賢璘, 宇野 彰: ハングル音読正確性と流暢性に関わる認知の力の貢献度とその発達の变化の検討—韓国語話者1年生から4年生までの児童—. *音声言語医学*, 53: 312-318, 2012.
- 13) Huang HS and Richard HJ: Phonological awareness and visual skills in learning to read Chinese and English. *Cognition*, 54: 73-98, 1994.
- 14) Logan JA, Schatschneider C and Wagner RK: Rapid serial naming and reading ability: the role of lexical access. *Read Writ*, 24: 1-25, 2011.
- 15) 春原則子, 宇野 彰, 朝日美奈子, 他: 典型発達児における音読流暢性の発達と関与する認知機能についての検討—発達性 dyslexia 評価のための基礎的研究—. *音声言語医学*, 52: 263-270, 2011.
- 16) Park HR and Uno A: Investigation of cognitive abilities related to reading and spelling in Korean: readers with high, average, and low skill levels. *Dyslexia*, 18: 199-215, 2012.
- 17) Coltheart M, Rastle K, Perry C, et al: DRC: a dual route cascaded model of visual word recognition and reading aloud. *Psychol Rev*, 108: 204-256, 2001.
- 18) Zoccolotti P, De Luca M, Di Pace E, et al: Word length effect in early reading and in developmental dyslexia. *Brain Lang*, 93: 369-373, 2005.
- 19) Sambai A, Uno A, Kurokawa S, et al: An investigation into kana reading development in normal and dyslexic Japanese children using length and lexicality effects. *Brain Dev*, 34: 520-528, 2012.

別刷請求先: 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
 総合研究棟 D520
 筑波大学大学院人間総合科学研究科
 周 英實

補遺 1 音読課題

単語音読

만이 산소 단련 마지막 뽀얏다 아랫입술 준법정신 걸면 윗잇몸 결단력 순례 잣다 몹다 편리하다 뽕다 맛먹다 헌법 수확량 앓다
넓적하다 밟다 허드렛물 훑어보다 (長女, 墓場, 鍛錬, 最後, ほんやり, 下唇, 遵法精神, おもて, 上の歯茎, 決断力, 巡礼,
頻繁, 薄い, 便利, 碾く, 当たる, 憲法, 収穫量, 病む, 平たい, 踏む, 使い水, 通す)

非単語音読

하렛 다준반 이몸허레 지소확 과잇정다

単語速読

고구마 크리스마스 가방 미끄럼틀 친구 단풍나무 아이스크림 세발자전거 소방차 장수풍뎡이 인형 무당벌레 구름다리 창문 유치
원 화장실 (さつまいも, クリスマス, かばん, 滑り台, 友達, もみじ, アイスクリューム, 三輪車, 消防車, かぶとむし, 人形,
てんとうむし, 陸橋, 窓, 幼稚園, お手洗い)

非単語速読

구스름 스전장문 스크 세방다거윈 이구림스 나단치 형마인무 차끄 풍실고리마 레소 당무친 이라창방 장리유틀발 풍가벌 구아림
자크 화톳

文章速読

“어? 무슨일이지.” 아버지는 허둥거리며 달려왔습니다. 평소라면 씩씩하게 견고있을 사자가 코를 땅에 대고 축 늘어져 있었습니
다. 병에 걸리기라도 한 것일까요? 아버지는 매우 걱정하는 얼굴로 나에게 말했습니다. “미안하지만, 수의사 선생님을 불러올
테니까, 여기서 기다리렴.” 아버지는 손에든 먹이를 두고는, 내가 고개를 끄덕이는 것도 잘 보지 않은 채 재빨리 문으로 뛰어갔
습니다. 잠시 후, 아버지는 수의사 선생님을 데리고 돌아왔습니다. “안심하세요. 조금 피곤한 것일 뿐이에요. 내일은 반드시
건강해질 거예요.” 아버지는 매우 안심함 듯했습니다. 여름방학이 이제 막 시작되었습니다. 이로써 많은 어린이에게 동물원에
서 가장 인기가 많은 사자의 건강한 모습을 보여줄 수 있습니다. (「あれ, どうしたんだ」父は, あわててかけ寄りました. いつ
もならさっそうと歩いているライオンが鼻を地面につけ, ぐったりといっているのです. 病気になってしまったのでしょうか. 父は
とても心配そうな顔で僕に言いました. 「すまんが, 獣医さんと呼んで来るから, 待っていてくれ」父は手に持ったえさを置くと,
僕がうなずくのもよく見ないまま, 猛スピードで出口の方へ走っていきました. しばらくすると, 父は獣医さんを連れて戻ってき
ました. 獣医さんはライオンを診察し終えると, こう言いました. 「安心して下さい. ちょっと疲れているだけです. 明日にはきっ
と元気になりますよ」父は, とてもほっとしたようでした. 夏休みはまだ始まったばかりです. これで大勢の子供たちに動物園一
の人気のもの, ライオンの元気な姿を見せられます.)